

問1 武士が主従関係において、自分の仕える相手のことを何という？

1. 主君 2. 将軍 3. 幕府 4. 家臣

問2 13世紀にモンゴル帝国を築き、後に日本へ侵攻を企てた人物は誰？

1. チンギス・ハン 2. フビライ 3. オゴデイ 4. モンケ

問3 時宗の僧である一遍が、念仏を唱えながら踊ることで信仰を広めた形式を何という？

1. 唱題 2. 座禅 3. 念仏 4. 踊り念仏

問4 鎌倉時代後半に、荘園領主や幕府の命令を無視して年貢を奪い、実力行使によって抵抗した集団を何という？

1. 海賊 2. 足輕 3. 悪党 4. 一揆勢

問5 日蓮が仏教の真の教えが記されていると説いた経典の名前は何か？

1. 法華経 2. 阿弥陀経 3. 般若心経 4. 観無量寿経

問6 鎌倉時代に制定された、武士社会の決まりごとや裁判の基準を何という？

1. 寺院の戒律 2. 朝廷の古例 3. 武士社会の慣習 4. 公家の教養

問7 鎌倉時代、将軍に代わって幕府の実権を握り、代々その職を世襲した一族を何という？

1. 源氏 2. 藤原氏 3. 平氏 4. 北条氏

問8 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？

1. 屯所 2. 防塁 3. 寄合 4. 番役

問9 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？

1. 随筆 2. 日記 3. 物語 4. 日記文学

問10 鎌倉時代の将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」によって成り立つ結びつきを何という？

1. 中央集権 2. 封建制度 3. 公地公民 4. 主従関係

問11 鎌倉幕府において、将軍が御家人に本領を安堵したり新恩を給与したりすることと、御家人が軍役などを果たすことの結びつきを何という？

1. 新恩給与 2. 本領安堵 3. 御恩と奉公 4. 年貢徴収

問12 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？

1. 12世紀 2. 13世紀 3. 15世紀 4. 14世紀

問13 元寇の際、防衛のために石築地が築かれた現在の福岡県にある湾を何という？

1. 博多湾 2. 壇ノ浦 3. 鎌倉 4. 大宰府

問14 鎌倉時代の武士の間で広く行われていた、親の領地を子や女子などに分けて相続させる仕組みを何という？

1. 単独相続 2. 長子相続 3. 永代相続 4. 分割相続

問15 鎌倉幕府において、将軍が御家人の所領を保護・保証することを何という？

1. 知行国 2. 奉公 3. 所領安堵 4. 御恩

答え合わせ・解説

問1	答え 1 主君	主君は、鎌倉幕府においては将軍であり、家臣である御家人に対して領地の保護（御恩）を保証する存在です。御家人は、この主君のために命をかけて戦ったり、警備などの務め（奉公）を果たしました。この強固な関係性が、鎌倉幕府を維持する大きな力となっていました。
問2	答え 2 フビライ	第5代皇帝フビライ・ハーンは国号を「元」と改め、大都（現在の北京）を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。彼は日本に対しても外交使節を派遣して服属を求めましたが、幕府がこれを拒否したため、1274年の文永の役と1281年の弘安の役という2度の遠征軍を日本に送りました。
問3	答え 4 踊り念仏	「踊り念仏」は、楽器の音に合わせて歌い踊りながら念仏を唱えるという、非常に活動的な布教の形です。視覚的・聴覚的に人々に訴えかけるこの方法は、当時の民衆にとって非常に魅力的でした。
問4	答え 3 悪党	悪党は、荘園領主や幕府の統制を無視して、力づくで年貢の徴収を妨害したり、所領をめぐる紛争を起こしたりした武装集団です。武士だけでなく、土豪や農民が含まれることもありました。
問5	答え 1 法華経	日蓮は、数ある経典の中で『法華経』こそが釈迦の教えの真髄であると主張しました。この経典を信じ、「南無妙法蓮華経」という題目（唱える言葉）を唱えることが、人々の救いにつながると説いたのです。
問6	答え 3 武士社会の慣習	それまで武士の間で行われてきた「武士社会の慣習」を基に、裁判の基準が文章化されました。それ以前の京都の朝廷が用いていた律令は、貴族社会には適していても、土地に執着する武士の日常的な紛争を解決するには複雑すぎました。そのため、公平で分かりやすいルールが求められたのです。
問7	答え 4 北条氏	北条氏は、幕府の最高職である「執権」に就き、将軍を補佐・監視する形で政治を行いました。これにより幕府の実質的な支配権を確立し、数世代にわたって安定した統治を維持しました。
問8	答え 2 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしつじ）とも呼びます。
問9	答え 1 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問10	答え 4 主従関係	主従関係とは、将軍が土地を保障する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」が対になったものです。この契約的な関係により、将軍は御家人を束ね、軍事力を維持しました。土地を媒介として「御恩と奉公」を繰り返すことで、幕府は全国の武士を支配下に置くことができました。
問11	答え 3 御恩と奉公	将軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。対して、武士は京都や鎌倉の警備をしたり、戦いの際に軍役を務めたりする「奉公」を行いました。この相互の契約関係が幕府の統治の基盤となりました。
問12	答え 2 13世紀	1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本でいう鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。
問13	答え 1 博多湾	博多湾は、元軍の主要な上陸地点となりました。二度目の襲来（弘安の役）に備え、幕府は博多湾岸に「石築地（防塁）」を築かせ、元軍の騎馬隊が上陸するのを防ぐとともに、日本軍が弓矢で戦いやすいような工夫をしました。この防衛線の強固さが、元軍の上陸を阻む大きな要因となりました。
問14	答え 4 分割相続	親が持つ領地を、男子だけでなく女子にも分けて相続させるのが一般的なルールでした。当時は女性も地頭として土地を管理する権利を持っており、家族が協力して家を支える社会構造が一般的でした。
問15	答え 3 所領安堵	所領安堵とは、御家人が持つ土地の支配権を将軍が保証する仕組みです。御家人は、将軍からこの御恩を受ける代わりに、戦場での戦いや京都の警備といった軍役を果たす義務がありました。この「御恩と奉公」の精神が、幕府の強力な支配体制を支える土台となりました。